

月報 シオン山

2026年6月7日発行 (No508)

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

.....

【月間聖句】

他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。

(ローマの信徒への手紙8章39節b)

「生かされていた」

安部優子

「たといわたしは死の影の谷を歩むとも

わざわいをおそれません

あなたがわたしと共におられるからです」 (口語訳)

詩編第23編4節

とある年のある土曜日に、身体のあまりの痛みに耐えがたく、近くの婦人科に行き「うちではありません。」と紹介された泌尿器科クリニック診察の後に「うちでは手に負えませんので紹介状を書きますので、そちらで診てもらってください。」その紹介状は県のがんセンターでした。

県のがんセンターでの診断は「膀胱癌」で「予後一年」「膀胱全摘手術」「人工肛門」等の説明を受けました。

入院が一ヵ月はかかるという事で、実家のある北九州への転院を希望。北九州市立医療センターへ。

そこで告げられたのが「子宮内膜症の症例のひとつで、命に別状無いばい。」驚愕しました。

あれから 20 年。わたしは生かされております。

わたしは、満 20 歳のイースターに受洗しておりました。

わたしが余命 1 年宣告を受けても、「私の人生、これまでか!？」と、取り乱さず受け止められたのは、三位一体の神さまが、共にいて下さっていたからにほかなりません。

術後の激しい疼痛との長期の闘病生活のなかで、私は、自分が「生きているんじゃない、生かされているんだ。」ということに気づかされたのでした。